

## 沿革

青森県曹洞宗青年会は昭和52年苦米地俊乗老師が初代会長となり発足となりました。主な活動として市内托鉢や法式研修会など様々な行事を行ってきました。特に寺族を対象にした精進料理講習会などは、とても貴重な体験だったと思います。当時の役員会議事録を見ても、この頃から青年会独自の研修会を実施したいとい



# 青森県曹洞宗青年会

## 団体の長所及び主な活動

私は一昨年度、昨年度の二年に渡り、青森県曹洞宗青年会の副会長として、養老寺住職金山晃道会長の元、共に活動してまいりました。その中で色々と新たなチャレンジとして、今まで青曹青として行ってこなかったことに着手してきました。まずは、ボランティア活動の一

う意見が多かったようです。平成の時代となり、雲仙普賢岳災害など被害にあわれた方の為に義援金を募り、口座を開設したり、募金箱を各教区に配布するなどその都度、積極的にチャリティ活動を行いました。そして平成3年には「インド仏跡巡拝の旅」として研修旅行に行きました。この頃はまた、交通事情の不便もあり大変だったようです。青年会活動として大きな事業と

環として、ゴミ拾い活動を行いました。ゴミ拾い自体は青曹青でも以前やったことがありますし、また他の県の青年会でもやっておられると思います。ではなぜ新たなチャレンジなのか？それは、どこかに集まるのではなく、教区単位でそれぞれがそれぞれの場所です。ゴミ拾い活動を、県内同時刻に一斉に行ったことです。忙しい会員も沢山いらっしやいます。時間の都合もあり、交通事情等で普段なかなか参加できない方でも参加で

いえば東北地方集会「青森大会」です。当時の諸先輩方も何度も会議を開き、研修内容・テーマを考え、大変な苦勞をされていたようです。これまでの大会のテーマとしては「思索、そして大いなる前進」「大衆教化の接点を求めて」「青年僧侶の安心の再考」「脚下照顧」など、青年僧侶としてできることは何であらうか、そして何かしなくてはという想いが強かったものと伺えます。それは今も会員の心の中に受け継がれ、青年会という仲間と

設立 | 昭和52年発足  
 会長 | 金山晃道  
 副会長 | 白澤雪俊 兜森忍道  
 事務局長 | 蒔苗高明  
 事務局次長 | 花田崇胤  
 会計 | 石岡大乗  
 監事 | 小笠原寛昌 桐原拓哉  
 広報 | 柿崎宏隆 新山宗晃  
 三國典央  
 事務局員 | 蒔苗祐二  
 溝口孝道  
 山口龍堂  
 理事 | 13名(各教区より)  
 会員数 | 82名(平成23年1月1日現在)

きるようにしたことです。これにより今までにない数の参加人数が集まりました。この行事を「そうとうお掃除し隊」と名付け、活動を始めました。当初活動としてゴミ拾いとは「ありきたりだ」という意見もありましたが、その当時、南直哉老師を招いての座談会を開いた時に、「何はともあれ、まずは行動し、続けていくことが大事である」という言葉を受け、河川敷や公園等の県内一斉ごみ拾いを実施いたしました。続けることに

して集まり、「共に仏道精進を」という現在の結束につながっております。



「そうとうお掃除し隊」

